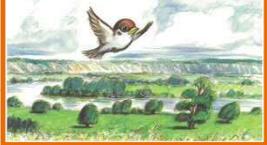


# 大好き！絵本

初瀬 恵美

こすずめのぼうけん



『こすずめのぼうけん』

文：ルース・エインズワース

訳：石井桃子

絵：堀内誠一

出版社：福音館書店

新緑が美しい季節となりましたね。そして、園庭や野山に響き渡る鳥達の声がとても気持ちが良い季節となりました。保育園には、今年もつばめもおとずれて、巣作りをしています。毎日、巣と外とを何往復もしたり、巣や物干しの上で休憩したりしています。順調にいけば、もうすぐひなが生まれ、1か月もすれば独立してゆくことでしょう。

今月は、独立してゆくとする「子すずめ」と優しく独立を支える「おかあさんすずめ」が描かれた『こすずめのぼうけん』を紹介したいと思います。

子すずめは、お母さんと一緒に住んでいました。子すずめに、茶色の羽が生え、つばさをばたばたさせることができるようになるとお母さんすずめが、飛び方を教え始めました。すると、子すずめは、すぐに上手に飛ぶことができるようになりました。嬉しさのあまり目標よりも「もっと多くへ飛んでいける」「ぼく ひとりで、せかいじゅうをみてこれる」そう思った子すずめは、どんどん、どんどん、

遠くへ飛んでいきました。でも、まだ飛ぶことができるようになったばかりの子すずめが、そんなに遠くへいけるはずがありません。少しずつ羽がいたくなってきて、頭もいたくなってきました。そこで、子すずめは、休む場所を探します。いろいろな鳥の巣を訪れては、「やすませていただいて、いいでしょうか」と尋ねました。でも、カラスの巣にいくと「おまえ、かあ、かあ、かあっていえるかね？」と聞かれ、山鳩の巣にいくと「おまえさん、くう、くう、くうっていえますか？」と聞かれ、どこに行っても、その巣の鳥と同じ鳴き方ができるか聞かれます。そのたびに、子すずめは「いいえ、ぼく、ちゅん、ちゅん、ちゅんってきり、いえないんです」と答え、休ませてもらうことはできません。疲れ果てた子すずめ。その子すずめを一日中探しまわり、お母さんが、迎えにきてくれます。そして、おんぶされて巣に戻り、お母さんのあたたかい翼の下で子すずめは眠りました。

私はこの絵本が持つあたたかさが大好きです。子どもが巣立とうとするとき、先回りして、障害物がないようにしてあげたい、と思う気持ちが親なら多かれ少なかれあると思います。でも、本当に大切なことは、巣立とうとする好奇心をこわさないように、心をかけながら見守り、困ったときには支えになることが大切だと教えてくれる絵本だなと思いました。子すずめは、羽がいたかったり、休ませてもらえなかったり、辛い経験をしました。巣立ち始めた子すずめのように、子どもたちも、友達とけんかしたり、思うようにいかなかったり、いろいろな葛藤を日々しています。もちろん、思い通りになるならそれが一番です。しかし、思い通りにならないことも、沢山あるのが人生です。そんなとき、この子すずめのお母さんのように、優しく、あたたかな後ろだてになって、支えていただけたらなと思わせてくれる絵本です。

